

第5学年 算数科学習指導案

- 1 単元 「分数（1）」（本時5／9）
- 2 本時の目標
 - ・分母が異なる加減の計算の仕方を考え、説明することができる。（思考・判断・表現）
- 3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 問題文1を読み、把握する。 ・ $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ と $\frac{1}{2} - \frac{1}{3}$ だ。 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}$ かな。 ・目盛りがないと答えがわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文2行分をテレビ画面に映す。 ・液量図を見せ、目盛りがないと答えがわからないことを確認する。
課題 (2)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 分母のちがう分数のたし算とひき算の仕方を考えよう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・分母が違くと計算できないと確認する。
展開 (8)	3 <u>たし算とひき算の立式をし、計算の仕方を考える。(丸自)</u> ・分母が同じなら、計算できそうだ ・分母が6になるとよさそうだ。 ・通分すると答えが分かりそうだ。 ・目盛りを6つずつに合わせると、答えが分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発問「$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$と$\frac{1}{2} - \frac{1}{3}$の計算を考えてみましょう」 ・4年生の学習事項から計算の仕方に見通しをもつため「どんな分数なら計算できるかな」と補助発問をする。 ・計算の仕方と通分の必要性の理解を深めるため、液量図のメモ用紙を配付する。
(15)	4 計算の仕方を話し合う。 ・目盛りの数を合わせると分母の最小公倍数が分かって計算できる。 ・分母がそろえば計算できそう。	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の学習事項から計算の仕方に見通しをもつため「どんな分数なら計算できるかな」と補助発問をする。 ・計算の仕方と通分の必要性の理解を深めるため、液量図のメモ用紙を配付する。 ・既習事項を復習するため、液量図に目盛りを加えた児童に理由を問う。 ・通分する必要性を視覚化するために、目盛りを合わせると、答えがすぐに分かることを確認する。
(10)	5 問題2の練習問題①と⑤、③の順に取り組み、答え合わせをした後、残りの問題に取り組む。 ・分母を最小公倍数でそろえると、計算できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題③の答え合わせのとき、最小公倍数で通分することを板書で示す。 ・机間巡視をし、支援が必要な児童には、液量図のメモを用いて個別支援をする。
終末 (5)	6 <u>分母が違うたし算とひき算の計算の仕方の説明をノートに書き、発表する。(花丸自)</u> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ・分母が違う分数の計算のとき、通分してから計算する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問「<u>分数の違うたし算とひき算はどのように計算するか説明しましょう</u>」 ・通分する必要性を自分なりの言葉で説明している児童を指名し、称賛する。

- 4 評価
 - ・分母が異なる加減の計算のとき、通分する必要性に気づき、その理由を説明できたか。

(活動5の練習問題、活動6のノートの記述から)